



根室から全国へ広がった運動

北方領土の返還がまだ実現していないことから日本とロシアの間には平和条約が結ばれていません。一日も早く四島の返還により北方領土問題を解決して、両国が平和条約を結び、真に安定した友好関係が樹立されるよう全国的な返還要求運動が行われています。では返還要求運動の歴史を振り返ってみましょう。

北方領土の返還要求の声は、戦後まもなく北海道の根室ねむろにあがりました。当時の根室町長は島から追われた人たちの援護に全力をあげるばかりでなく、連合国軍最高司令官あてに北方領土返還の陳情書を出しました。これが返還要求運動の始まりです。

根室であがった返還要求の声は、やがて北海道内の各地にこたまし、運動の輪はしだいに全国に広がり、この運動を推進するための組織として都道府県民会議がつくられ、返還に向けたさまざまな活動が行われています。

二月七日を「北方領土の日」に決定

北方領土の返還を求める多くの人たちから返還運動をもちあげるため、「北方領土の日」を設けたいという要望が高まり、一九八一年(昭和五十八年)、政府は閣議で二月七日を「北方領土の日」とすることを決定しました。



返還運動って
どうなってるの？



この二月七日は、一八五五年(安政元年)、伊豆の下田で「日魯通好条約」が結ばれた歴史的な意義を持つ日です。毎年この日には東京で、北方領土返還要求全国大会が開催され、全国各地においても大会やパネル展、キャラバン活動などが行われています。さらに返還実現のための署名活動も行われ、多くの人たちから寄せられた署名はすでに八千万人をこえています。